

環境負荷を低減した持続可能な農業の推進

ねらい

病害虫防除技術であるIPMは環境負荷低減に資する技術であり、国が打ち出したみどりの食料システム戦略を推進する上で、欠かすことのできない技術です。管内の果菜類では、IPMの構成要素の一つである天敵昆虫を有効活用した生物的防除を普及推進しています。一方で、天敵による防除効果を実感できず天敵導入を断念する農家や、天敵を導入したものの正しく使用できず結果的に化学農薬に頼った防除を実施する農家が散見されます。そこで、当センターでは天敵を有効活用できるよう支援し、環境負荷低減や防除作業の省力化を図ります。

活動地域・対象

吉野川市・阿波市 なす、トマト、いちご生産者

普及活動の目標

<なす、トマト>

管内生産者が連携をすることで、土着天敵であるタバコカスミカメ（以下、タバカス）の融通体制が構築され、産地全体でコナジラミ類の被害が減少するとともに、減農薬・省力化が図られ、持続可能な農業生産活動が実現している（目標値：天敵融通体制構築、天敵導入農家数9戸）。

<いちご>

カブリダニ類を有効に活用するための防除体系が普及し、化学農薬の使用回数を抑えた防除が実現されたことにより防除作業の省力化が図られ、産地全体で安全・安心ないちご栽培が栽培されている（目標値：天敵を有効活用した防除体系を実施する農家数9戸）。

目標に向けた活動概要

1 なす、トマト

(1) 天敵温存植物の栽培支援

タバカスを活用する際、生産ほ場に定着させるためには、生産ほ場にゴマなどの天敵温存植物を植栽する必要があり、その栽培技術の向上が欠かせません。そこで、ゴマ生産地の視察を実施し指導者の栽培技術向上を図ったほか、栽培技術情報を収集し、栽培講習会や生産者の巡回等の機会に栽培指導を行い生産者の栽培技術の向上を図りました。

(2) 天敵融通体制の構築

タバカスは、促成栽培期間中に温存された個体を露地栽培にも使い、露地栽培で温存された個体を再び促成栽培に利用することで微小害虫の発生抑制になると考えられます。しかし、同品目で促成と露地を掛け持ちしている生産者はおらず、タバカスの利用循環は、各生産者ごとの融通によるため、利用希望者を取りまとめや調整を行いました。また、タバカスの導入時に入手先の一助として「土着天敵の温存拠点」を有志の生産者のほ場や就労支援施設のほ場に設置しました。

2 いちご

(1) 天敵の有効活用支援

促成いちご栽培においては、薬剤抵抗性が発達したハダニ類に対する化学農薬以外の防除方法が望まれています。しかし、天敵であるカブリダニ類に合わせたハウス内環境の維持や天敵に優しい農薬の選定が上手くいかず、天敵の定着性が悪いことから、天敵活用による防除方法につい

ては普及が進んでいませんでした。そこで、パックによって天敵が保護され、定着しやすい好条件が維持される天敵資材「ミヤコバンカー」を活用した展示ほを設置し、天敵活用版の防除暦を作成することで、天敵を有効活用した防除体系を推進しました。

普及活動の成果

1 なす、トマト

(1) 天敵温存植物の栽培支援

促成・露地なす、雨よけ・促成トマトの生産者に対し天敵温存植物の栽培技術指導を実施した生産者では、微小害虫の発生も少なく推移しました。また、指導者も視察研修によってゴマの栽培に詳しくなり、綿密な指導ができるようになりました（目標達成割合：天敵導入農家数15戸／9戸）。

(2) 天敵融通体制の構築

「土着天敵の温存拠点」を有志の生産者のほ場や就労支援施設のほ場に設置することで、土着天敵の利用を始める生産者や土着天敵の温存がうまくいかなかった生産者にとって、栽培地域で頼ることのできる土着天敵の入手先ができました（目標達成割合：天敵融通体制構築→構築）。

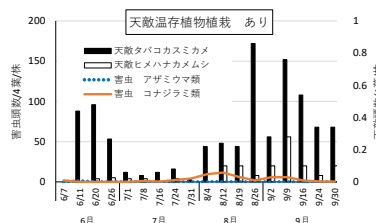


図 天敵による防除効果(上)と土着天敵温存拠点(下)

2 いちご

(1) 天敵の有効活用支援

設置した展示ほでは慣行区と比べ試験区の方が栽培期間を通してハダニ類の密度を低く維持することができました。また、天敵活用版の防除暦を作成し、展示ほの結果を共有したことで、生産者の天敵導入へのハードルが下がり、薬剤選定に苦慮していた生産者を中心に天敵を有効活用した防除体系を実施する生産者が増加しました。（目標達成割合：天敵導入農家数22戸／9戸）

用語	タバコカスミカメ：微小害虫のアザミウマ類やコナジラミ類を食べてくれる土着天敵。
説明	カブリダニ類：微小害虫のハダニ類やアザミウマ類を食べてくれる天敵。

今後の発展方向

- ・天敵温存植物の供給体制確立や拠点の継続設置等で微小害虫対策を目指します(なす・トマト)。
- ・ハウス内環境の測定・制御により、天敵の効果を発揮できるような検討を行います(いちご)。

関係者からの声

- ・天敵温存植物の管理に失敗し、土着天敵が不足した場合でも確保ができるので助かる(なす)。
- ・天敵温存拠点を利用したいので引き続き設置を望む(なす)。
- ・土着天敵の利用によりコナジラミ類の密度・被害も減りありがたい。今後も続けたい(トマト)。
- ・天敵の活用によりハダニが増えにくくなった。ハダニの発見が遅れがちなので助かる(いちご)。
- ・ハダニ類の化学防除の手間が減って、販売に力を入れられるようになった(いちご)。

吉野川農業支援センター

連絡先：徳島県吉野川市川島町宮島736-1 tel：0883-26-3971